

さあ！ひろげよう！ 「地域と共にある学校づくり」

「地域と共にある学校づくり」とは



未来を担う子どもたちの成長を支え、社会に開かれた教育課程を実現するため、園・学校が地域住民等と目標やビジョンを共有し、学校の運営に参画することにより、地域と一体となって子どもたちを育てための仕組みである「コミュニティ・スクール」(※⑤ページ参照)と、幅広い地域住民や企業・団体等の参画により、子どもたちの成長を支え、地域を創生する「地域学校協働活動」(※⑤ページ参照)を一体的に推進することにより、学校を地域のベースとして地域コミュニティを再構成し、子どもたちの様々な教育課題の解決及び地域の教育力向上を図ります。

保護者や地域住民等は、教職員と「熟議」(※④ページ参照)をし、協働することを通して、地域ぐるみで子どもたちを育てる活動を展開します。この一連かつ継続的な取組が、「地域と共にある学校づくり」です。

「地域と共にある学校づくり」の期待される効果

▶▶▶▶ 地域住民の教育活動への協力が進みます

地域住民が学校を訪れる機会が増え、教育活動全般について知る機会が増えることから、地域に開かれた「わたしたちの学校」という意識が生まれます。



▶▶▶▶ 子どもたちの規範意識・社会性が向上します

様々な体験活動等を通じて、異なる世代の方々と交流する機会が増え、多様な価値観に触れることから、地域をより良くしようとする意識が芽生え、子どもたちの規範意識・社会性が向上します。



▶▶▶▶ 安全・安心なまちづくりが進みます

子どもを見守る大人の数が増え、集まった地域の方々による交流の輪が広がることから、安全・安心なまちづくりにつながります。



▶▶▶▶ 地域の活性化、地域の教育力の向上につながります

地域住民同士の交流が進めば、お互いの人間関係が広がり、地域が活性化します。また、地域住民が自らの知識や経験を活かして、学校と協働した取組を進めることで、地域の教育力が向上します。



コーディネーターって何だろう？

「コーディネーター」とは

「地域と共にある学校づくり」を進めるにあたり、学校と地域人材(ボランティア等)、地域人材間の連絡・調整を行い、活動の総合的な調整を担う地域人材が「コーディネーター」です。

「コーディネーター」って何をすればいいの？

- 地域と学校を上手につなぐ役
- 学校の立場を代弁し、地域人材の思いも理解できる橋渡し役
地域や学校の在り方は多様です。そのため、それらをつなぐ「コーディネーター」の役割もさまざまです。

コーディネーターの極意①「学校との関わり」における役割

■ 学校の思いやニーズを把握、教職員と顔の見える関係づくり

定期的に学校を訪問し、管理職や担当教職員等と面談する。	職員会議や全校朝会で、教職員や子どもたちに紹介をしてもらう。	学校に部屋や机を用意してもらい、相談しやすい体制をつくる。
-----------------------------	--------------------------------	-------------------------------

■ 学校と地域の「熟議」の場に参画

地域の子どもたちに対する思いを伝える。	教職員と「どのように子どもを育てるか」を共有する。	学校と協働して、具体的な取組を企画・立案する。
---------------------	---------------------------	-------------------------



■ 地域と学校の温度差を調整

学校の思いやニーズをしっかりとボランティアに伝える。	ボランティアから具体的な活動の希望がある場合は、学校に伝え実施について調整する。	学校の立場で、ボランティアにお礼を言う。
----------------------------	--	----------------------



コーディネーターの極意②「地域との関わり」における役割

■ 地域や保護者の子どもたちに対する思いの把握

地域での各種会合や活動に参加し、地域住民との関係をつくる。	P T Aの会合に参加し保護者との関係をつくる。
-------------------------------	--------------------------

■ 「地域と共にある学校づくり」について知らせる

様々な機会を通して「地域と共にある学校づくり」について広報する。	学校からのニーズを調整して、ボランティアを募集する。
----------------------------------	----------------------------



■ 取組に関わる人・団体の発掘とつながりづくり

地域の団体等で、学校と協働することにより、教育活動等で成果が期待できる団体等とつながりをもつ。



こんな時はどうしたらいいのだろう？

→ コーディネーターは、 こうして乗り越えた。

新しいボランティアを見つけることが難しいです。



PTA会長に、親世代へのボランティア参加の呼びかけをお願いすると、増えました。

地域の会合等で、自治会長に相談したり、老人会や民生委員に呼びかけたりしています。

ボランティアと教職員との接点が少ないです。



一緒に作業をする機会・活動があったことで、お互いの距離が縮まりました。

ボランティアが教室に入ることに抵抗感がある教職員もおられます。



学校と相談して、学校で知り得た情報を漏らさないなどの決まりをつくり、支援に入る前にボランティアに伝えています。

ボランティアがしたいことを学校に押しつけないように心がけています。

熟議が不足しています。教職員と情報交換を十分に行っていません。



美化運動、園芸等、学校に入りやすい活動から始め、関係をつくり、まずは管理職と話のできる関係になりました。

活動後に、子どもたちの様子や反省を教職員とボランティアが短時間で交流しています。

学校が、ボランティアに何をしてほしいか定まっています。



学校へはこまめに出向いて、教職員や子どもたちとふれあう機会をもっています。そうすることで、学校が地域にお願いしたいことが分かってきました。

地域には、専門的な知識を持っている人、ボランティアをやりたいと思っている人が、たくさんいます。子どもや地域のことを思って行動するコーディネーターの姿が、そのような人たちを学校へと集わせます。

